

クメール文字

上田 広美

クメール文字は、南インドから伝えられた文字を独自に発展させた表音文字で、最古の記録は、カンボジア王国タケオ州で発見されたシャカ暦 533 年（西暦 611 年）と記された碑文です。1993 年に公布された王国憲法第 5 条では、「公用言語及び文字は、クメール語及びクメール文字である」と規定されています。クメール語は、同国の人口約 1200 万人の 9 割以上を占めるクメール族の言語で、カンボジア語とも呼ばれ、系統的にはオーストロアジア語族のモン・クメール語族に属します。

1998 年より国内の山岳民族を対象に、クメール文字を使って民族語も記述する二言語併用の識字教育が開始されました。また、国外のクメール語話者のうち、内戦中にアメリカ・フランスをはじめとする第三国に定住した約 23 万人とベトナム南部の約 90 万人はクメール文字も使用しており、出版物も出ています。更にタイでもパーリ語を記すためにクメール文字が使用されています。

文字の仕組みは、33 個の子音文字の上下左右に 22 種類の母音記号をつけます。子音文字には「脚」と呼ばれるもう 1 つの字体があり、1 つの語の中で子音が連続している時にはこれを用います。古くから使用されていた文字に対し音声が変わったため、2 つの文字が同一子音を表す一方、同一記号が 2 つの母音を表すという複雑な体系をなしています。

フランス植民地期の 1940 年代には、行政文書を中心にラテン・アルファベットを用いたクメール語の記述が試みられましたが、宗教界などからの強い反発もあり定着しませんでした。クメール文字と同系のタイ文字やラオ文字にはない「脚」など文字の種類が多さから、クメール文字をラテン・アルファベットに翻字することは困難で、現在でも翻字方法は統一されていません。複雑な文字体系に加え、1970 年から 20 年以上続いた内戦の影響もあり、コンピュータのための文字コードはいまだに統一されておらず、電子形態での文字データの利用と保存も立ち遅れています。

正書法に関しても統一見解がなく、1967 年に改定された唯一の国語辞典の綴りと現在初等教育の教科書で用いられている綴りの差異が問題となっています。成人識字率は、最新の国勢調査（1998 年）によると、67.3（男性 79.5、女性 57.0）パーセントです。

「こんにちは」にあたるクメール語の挨拶は、次のようになります。この挨拶は、人と出会った時、朝昼晩いつでも使うことができます。前の語チョムリアブは「告げる」、後ろの語スオは「尋ねる」の意味です。チョムリアブは 2 種類の綴りが可能で、< > 内が現在の初等教育の教科書の綴りです。

ជំរាប សួរ < ជំរាប សួរ >
cu r m è'əp s u'o(r) cum r è'əp s u'o(r)

チョムリアブという語の中で 2 つ連続した子音の第 2 の子音にあたる r は「脚」で書かれます。「脚」は第 1 の子音文字の下か、下から右にかけてつくのですが、この r の「脚」だけは左側につきます。そのため、クメール文字は左から右に書くにもかかわらず、この場合、一見、右の m から左の r に戻って読むように感じられます。< > 内の綴りは「脚」をいりませんが、初等教育の綴りがすべての「脚」を排除しているわけではありません。

[参考文献]

- 坂本恭章『カンボジア語入門』、大学書林、1989.
- 坂本恭章「カンボジア語」、『世界の言語ガイドブック 2 : アジア・アフリカ地域』、三省堂、pp.47 - 61, 1998.
- 上田広美『エクスプレス・カンボジア語』、白水社、2000.

(町田和彦編著『華麗なるインド系文字』白水社 2001, pp. 188-189 より転載)